

鏡野町の力士碑 ① 町北部

先般、鏡野ドームで大相撲作州鏡野場所が開催されました。大きな力士たちの迫力ある稽古や取組を間近で味わい、感動された方も多かったのではないのでしょうか？

相撲は、戦後間もない頃までは大人から子どもまで、年代を問わず最も人気のある競技でした。なにしろ必要な道具や細かいルールもなく、体一つあれば行え、力が強いということはいつの時代でも憧れの存在だったからでしょう。

町内では現在上齋原神社で春に「おんな相撲」、秋に「子供相撲」が行われるのですが、かつては「地下相撲」とか「草相撲」と呼ばれるアマチュア相撲が盛んに行われ、五穀豊穡を祈る神事と融合し、神社の奉納相撲として春や秋の祭礼には欠かせない村の行事でした。

村の力自慢の男性の中には四股名をもち、他の村や津山などの大会に出場して活躍し、門弟を多く抱える者もいました。

このような地域で活躍した力士は、没後に門弟達によって顕彰碑を建立された者もいました。美作地域ではこのような力士碑が特に多く存在するようです。

鏡野町にも力士の碑がいくつか存在します。そのうち今回は町北部の力士碑を紹介します。

① 玉錦茂治碑（大正4年建立） 上齋原下の郷の観音堂石段下にあります。本名片田茂治。巨漢で相撲が強かっただけでなく、若手力士の育成に功績があったといわれています。巨漢で肥満していたため、風になびく孟宗竹をみてうらやましがったという逸話があります。

② 頭取登龍市蔵碑（建立年不明） 上齋原トンネル南口付近にあります。本名牧野市蔵。

「頭取」とは、現在の相撲部屋の親方のような存在で、若手を指導・育成する立場であった者のことです。下齋原の力士であったといいますが、碑の世話人として刻まれた名前は上齋原の方も多く、奥津、上齋原一带に多くの門弟を抱えていたことがわかります。



玉錦茂治の碑

かります。明治20年の志戸部神社（津山市）奉納番付には小結で「登龍市太郎」の名前があります。同一人物の可能性もありますが確証はありません。

③ 若鶴半三郎塚（明治25年） 羽出東前田の用水路沿いにあります。銘文に「明治廿五年旧六月廿九日大水害の為没ス」とあり、明治時代の第一水害で死亡した力士の供養塔です。

地元の古老の話では羽出二軒屋の生まれとのことですが、力士としての実績は不明です。

④ 八萬城庄五郎（慶応2年） 大町の県道と中林が交差する所にあります。本名新免庄五郎。文久年間（1861～1863）頃に活躍し、相撲と弓に秀でたという言い伝えがあります。

⑤ 小柳彦太郎（昭和4年建立） 元は香々美の藤屋に建立され、昭和初期に先祖の墓地がある大町の宗重に移築されたといえます。本名永滝彦太郎。明治・大正の頃に津山市で相撲会に入り活躍したと記録があります。



小柳彦太郎の碑

町内の博物館・美術館・資料館パンフレット作成しました

鏡野町内には 10箇所の博物館・美術館・資料館などの展示施設があることはご存じでしょうか？

生涯学習課ではこれらをまとめて紹介したパンフレットを作成しました。案内図と共に、それぞれの館の見どころなども書いてあります。

町内の展示施設、各公民館、ベストロッチ館、振興センター、道の駅、みずの郷奥津湖などで無料配布していますので、秋の紅葉と共に町内の各施設も是非ご堪能下さい。

お問い合わせ先 生涯学習課 電話(0868)54-7733



す。津山市上横野に明治30年代頃まで小柳光蔵という力士が頭取として活躍していますが、彦太郎との関係は不明です。

町南部の力士碑は次号で紹介いたします。

参考：「岡山の相撲」、「鏡野町の石造物」、「奥津町の石仏」、「香北ふるさとの伝承」、片田知宏氏・本山繁基氏の調査資料